

**令和2年度
長野県森林づくり県民税活用事業
木曽地域の実績**

長野県木曽地域振興局

1 防災・減災のための里山等の整備事業

(1) 里山整備方針作成事業

- ・森林づくり県民税を活用した「防災・減災」及び「住民等の利活用」のための里山の整備を進めるため、航空レーザ測量等の科学的知見や現地調査の結果等を踏まえ、優先的に整備していく箇所を特定、図面化することにより、森林づくり県民税の効果的な活用と取組の見える化を図る。

【木曽地域の実績】

(単位：箇所、千円)

事業内容	上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
里山整備方針の作成 (策定済)	箇所数	1	1	4	1	1	9
	事業費						

(2) みんなで支える里山整備事業

- ・「防災・減災」の観点から、未整備の里山のうち、里山整備方針に基づき優先的に整備が必要な民有林（県及び市町村有林を除く）の間伐を推進する。
- ・集落や主要なライフライン（道路、線路、電線等）に接する森林において、倒木の恐れのある危険木及び枯損木を伐採する。

※里山整備方針が作成されるまでの間、県が提示した航空レーザ測量等による優先整備箇所及びこれと一体的に行う箇所を補助対象とする。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R 2 年度 事業計画	補助率	補助金額
・間伐（搬出間伐を含む） ・路網整備	市町村、森林組合、NPO法人、森林所有者の団体等	里山の整備 105ha	9/10	39,144
・ライフライン等保全対策	市町村	危険木の伐採 2箇所	9/10	902

※ 危険木の伐採については、保全対象の重要性及び倒木が発生した場合の保全対象への影響を勘案して実施箇所を決定するとともに、電力会社等との連携により効率的、効果的な対策に努めることとする。

※ 補助金額の〔 〕は、森林づくり県民税の額（裸書きは国庫補助を含む金額）。

【内訳】

(単位：ha、本、千円)

区分	上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計	
里山の整備	整備面積	2.01	25.93	51.32	15.98	0	9.78	105.02
	補助金額	555	9,940	14,011	11,089	-	3,549	39,144
危険木伐採	(箇所数)		(1)			(1)	(2)	
	本数		15			52	67	
	補助金額		427			475	902	

みんなで支える里山整備事業(間伐)の実施状況

木祖村大字オオザリ地区

施行前



住居や道路の上部に位置する急傾斜地の里山林です。

防災・減災効果を向上させるため、ヒノキの適正な間伐を行いました。

間伐により林内が明るくなり、下層植生の繁茂と残した木の太りや根張りの向上が期待されます。

また、併せてテープ巻きでクマの皮剥ぎ被害を防止します。

施行後



(3) 道路への倒木防止事業

- ・ 県が管理する道路の区域外(山林)から道路への倒木の恐れがある危険木が多く確認される箇所のうち、防災効果の高い箇所の危険木伐採を集中的に実施する。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R2年度 事業実績		補助率	事業費
		危険木の伐採	1 箇所		
・ 県管理道路沿線の危険木伐採	県	危険木の伐採	1 箇所	-	2,014

【内訳】

(単位：箇所、千円)

区分	上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
箇所数			(国道361号) 1				1
事業費			2,014				2,014

「道路への倒木防止事業」の危険木伐採の実施状況

国道361線（木曽町 開田高原）

施行前



施行後



(4) 県単河畔林整備事業

- ・ 県が管理する一級河川の区域外(民地)の河畔林及び市町村が管理する準用河川区域とその周辺の河畔林のうち、防災効果が高い箇所の整備を推進する。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R2年度 事業実績		補助率	事業費及び補助金額
		県管理河川	5 箇所		
・ 河畔林の整備（除間伐等）	県	県管理河川	5 箇所	-	19,619
	市町村	市町村管理河川	4 箇所	9/10	

【内訳】

(単位：箇所、千円)

区分	上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
県	箇所数 (中沢) 1	1 (桂川)		1 (笹川)		2 (伊奈川)	5
	事業費	1,496	1,496	1,496		2,981	7,469
町村	箇所数 (新茶屋沢) 1	1 (長根川)		1 (奥峰沢川)		1 (大沢)	4
	補助金	4,500	2,700	2,700		2,250	12,150

2 県民協働による里山の整備・利用事業

(1) 里山整備利用地域の認定

認定内容	事業主体	R2年度 事業実績	
地域活動、里山整備等の実施地域	里山整備利用推進協議会	里山整備利用地域の認定	1地域 (宮の越)

【内訳】

(単位：箇所)

区分		上松町	南木曾町	木曾町	木祖村	王滝村	大桑村	計
認定地域数	計画		1	3	1		1	6
	実績			2	1			3

※ 平成30年度認定の木曾町（末川）、令和元年度認定の木祖村（菅）を含む。

(2) 里山整備利用地域活動推進事業

- ・ 地域住民による里山の整備・利活用を促進するため、長野県ふるさとの森林づくり条例に基づく「里山整備利用地域」において、地域住民による里山整備利用推進協議会の立ち上げ及び里山整備利用地域活動計画の作成等を支援する。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R2年度 事業実績	補助率	補助金額
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地調査 ・ 地域活動（森林体験活動、薪の生産、山菜・きのこ栽培、野生鳥獣対策、植生保存活動等） ・ 計画作成 等 	里山整備利用推進協議会	宮の越里山整備利用地域：森林環境教育、安全講習など 菅地区里山整備利用地域：広葉樹林の整備	10/10	326

※里山整備利用地域の認定前であっても支援対象

「里山整備利用地域活動推進事業」の実施状況

「宮の越里山整備利用地域」の取組（木曾町 日義）

森林の現況や地域の里山の歴史を学ぶ



森林の伐採の現場を見学



地元の日義小中学生（小5、中2）への森林環境教育の実施

(3) みんなで支える里山整備事業

- 長野県ふるさとの森林づくり条例に基づく「里山整備利用地域」において、住民協働による里山の整備を促進するとともに、多面的な森林資源の利活用を進めることで、自立的・持続的な森林管理の構築を図る。

該当なし

(4) 里山資源利活用推進事業

- 里山の資源を有効に活用し地域に還元する仕組みづくりを進めるため、自立的・持続的な管理体制の構築に必要な資材の導入等を支援する。

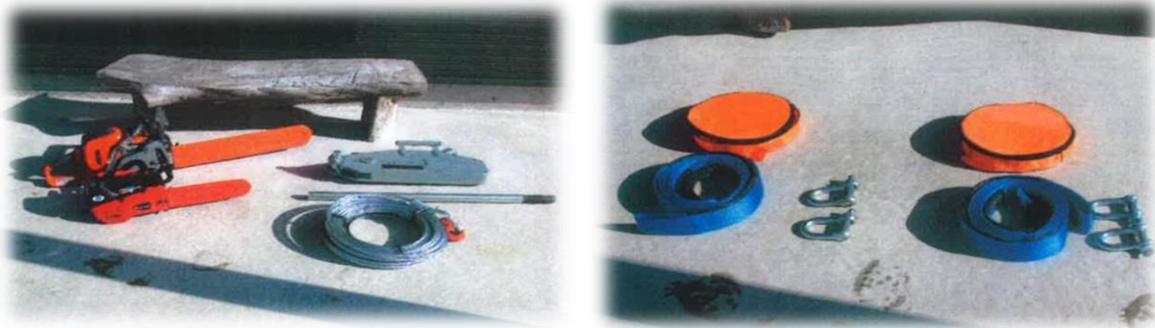
(単位：千円)

事業内容	事業主体	R2年度 事業実績		補助率	補助金額
資機材等の導入 (チェーンソー、薪割り機、簡易ウインチ、移動式トイレ等) 遊歩道の整備	里山整備利用推進協議会	菅地区里山整備利用地域：(資機材等の導入)	1 地域	3/4	192

※里山整備利用地域の認定前であっても支援対象

「里山資源利活用推進事業」の実施状況

「菅里山整備利用地域」の取組 (木祖村 菅)



菅里山整備利用推進協議会の活動準備として資機材を購入

3 地域で進める里山集約化事業

- 小規模個人有林、不在村者所有森林等が多い里山の森林整備を推進するため、間伐事業実施地の森林所有者の合意形成や、所有者の境界を明確化する取組を支援する。

該当なし

4 地消地産による木の香る暮らしづくり事業

(1) 子どもの居場所木質空間整備事業

- ・モデル性の高い施設において、県産材を活用して行う「子どもの居場所」の木造化・木質化及び調度品・おもちゃの設置に対して支援する。

(単位：千円)

事業内容	町村	施設名	補助金額	備考
調度品・おもちゃの設置	木曽町	役場本庁舎（キッズスペース） （床パネル、ままごとセット等）	375	
	木曽町	福島小学校 （机、椅子）	375	
	南木曽町	読書保育園 （整理棚、間仕切りパネル等）	368	
計			1,118	

(2) 木工体験活動支援事業

- ・子供を対象とした地域材を使った木工体験活動の開催を支援する。

(単位：千円)

事業内容	町村	体験内容	補助金額	備考
木工体験活動の開催	上松町	上松中学校3年生の総合学習の時間に、 「木曽ひのき」の小椅子の作製を実施	375	
	南木曽町	南木曽小学校3年生を対象に地域材のイス・ テーブルづくりを実施	144	
	木曽町	公募した小学生を対象に地域材を使用した 宝箱等のキットを配布し自宅で作製	396	
計			915	

「木工体験活動支援事業」の実施状況



上松中学校（3年）で総合学習の時間を活用した木曽ヒノキ小椅子づくり（上松町）

(3) 県産材公共サイン整備事業

- 市町村や民間事業者等が、県産材を利用して観光地等において行う案内標識整備を支援する。
該当なし

(4) 木づかい空間整備事業

- オフィス・店舗等の木質化、調度品の設置を支援する。また、多くの県民が利用する県有施設を木質化する。
【木曽地域の実績見込み】 (単位：箇所、千円)

事業内容		上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
木づかい空間整備事業	箇所			1 (合庁1F0k^-)				1
	事業費・ 補助金額			979				979

5 松くい虫被害木利活用事業

- 山林に放置され、有効活用されていない松くい虫被害木を有効活用し、地域が主体となっていく松くい虫被害木駆除の更なる取組を推進するため、松くい虫被害木を木質バイオマス発電の燃料（チップ）に資源化して利活用する取組等を支援する。

該当なし

6 森林の教育利用の推進

(1) 学校林等利活用促進事業

- ・ 周囲を森林に囲まれた長野県で学ぶ児童・生徒が森林・林業に親しみを感じ、次世代の森林づくりに理解を深めるとともに、学校林を活用した森林教育を推進するため、手入れが放置され利用困難になっている学校林について、森林税により集中的に整備する。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R2年度 事業実績		補助率	補助金額
・ 学校林の整備（除間伐等）	市町村	義務教育学校林の整備	1校	9/10	891

「学校林等利活用促進事業」の実施状況

南木曾中学校の学校林の体験活動に利用できない部分の森林整備を実施



南木曾中学校の1年生の学校

(2) 自然保育活動フィールド等整備事業

- ・ 豊かな森林資源、自然環境を活用した「信州やまほいく」認定園の活動フィールドの整備等を行うことにより、森林を活用した保育の安全性確保及び教育環境の充実を図ります。

該当なし

7 観光地における景観形成のための森林等の整備

(1) 観光地等魅力向上森林景観整備事業

- ・ 豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上を図るため、地域の景観に合致した森林整備等を推進し、観光地等の魅力向上を図る。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R2年度 事業実績		補助率	補助金額
・ 景観整備 ・ ビューポイントの樹木の伐採	町村	地域の景観に合致した間伐等	3件	9/10	4,729

【内訳】

(単位：件、千円)

区分	上松町	南木曾町	木曾町	木祖村	王滝村	大桑村	計
件数			3				3
補助金額			4,729				4,729

8 森林セラピー推進支援事業(施設整備)

- 本県の森林セラピーの利用を促進するとともに、関連する産業（観光、健康、環境、産業）との連携を強化し、地域資源として積極的に活用していくため、セラピー基地等の魅力向上を図るとともに、県内外へ積極的にPRを行い、利用者の増加、満足度の向上を図る。

該当なし

9 森林づくり推進支援金

- 森林づくり指針に掲げる方針を踏まえつつ、森林に関する各地域の様々な課題解決のための国庫補助等の既存施策の対象とならない市町村の取組を支援し、事業実施後は市町村において成果の把握・検証を行う。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R元年度 事業実績		補助率	支援金額
市町村が行う身近な課題解決のための森林づくりの取組	市町村	実施市町村数	6町村	定額	5,477

【内訳】

(単位：千円)

支援金	上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
実施内容	(緩衝帯整備)	(病虫害対策)	(緩衝帯整備)	(緩衝帯整備)	(緩衝帯整備)	(森林公園整備)	
配分額	688	770	2,075	692	592	660	5,477

森林づくり推進支援金事業の実施状況

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

上松町

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	令和 2 年度 緩衝帯整備事業 (倉本地区)
事業費		1,100,000円 (うち支援金: 688,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

上松町は総面積の約 90%を林野(15,217ha)が占めており、遊休地の山林化等も進み、町内各地でニホンザルやイノシシ等の野生鳥獣による田畑や住家付近での目撃や被害が増加し、住民生活に影響が出ている。

また、森林所有者の高齢化が進み、自ら森林の効率的かつ適正な管理が困難となってきた。

(2) 本事業の目的

農地と山林の境に緩衝帯を整備し、そこを通り道としている野生鳥獣の行動範囲を制限・抑制することで田畑や住家付近に出没しにくくし、目撃や被害の発生を軽減する。

事業内容

(1) 実施場所 上松町倉本地区

(2) 対象者 上松町倉本地区住民

(3) 実施方法 緩衝帯整備 刈り払い機等を使用し、人力での藪払い等とともに、人工林内の枝払い等を合わせ実施

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30～令和 4 年度) 緩衝帯整備 7.0ha

②令和 2 年度実績 緩衝帯整備 0.27ha

(平成 30 年度からの累積実績 1.95ha)



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

緩衝帯整備を行う事で、野生鳥獣の田畑や住家への接近を防ぎ、目撃や被害の増加の抑制が期待できる。

(2) 継続性

整備後の再繁茂については、土地所有者に管理をお願いし、緩衝帯整備の効果を持続させる。

(3) 普及性

道路に近い場所において複合的に整備されることで人の目に触れ易く、なおかつ、野生鳥獣の通り道となりやすい場所をなくすことで近隣住民の不安を取り除く効果も期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

山と集落が接近しており、イノシシ、サル等の出没が多く、令和2年度はクマの出没が多かったことから、見通しを徹底してよくしたことで、接近する動物の確認がしやすくなるとともに、動物の隠れ場所がなくなることで、農地への加害獣の出没の抑制が期待できる。

(2) 課題

地域住民による継続的な管理をお願いし、効果の維持を進めているが、住民の高齢化等で維持管理への負担が大きくなっている。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

加害獣の接近を抑制し、被害の防除効果が見込まれることから、今後も事業を継続していく

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

南木曾町

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくりに関する事業	森林病虫害対策事業
事業費 667,980 円 (うち支援金: 625,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当初は、田立地区にてマツノザイセンチュウによる森林病虫害被害が発生していたが、吾妻広瀬地区を除く町内全域に被害が年々拡大しており、町内の被害拡大を抑制する事が困難となってきた。

これ以上北上させない為にも国の補助事業駆除地域を大桑村との町村境付近の被害木のみとしていることから、その他の地域で発生した被害木処理を町単にて実施しているが、財政負担は増える一方で予算関係もあり処理できず、枯損木となり道、住宅等へ倒木する危険性がある。

(2) 本事業の目的

森林病虫害被害で倒木の恐れがある危険木を伐採して人的被害防止と病虫害被害の拡大防止を図る。

事業内容

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 南木曾町読書(天白・上の原・神戸)地区、田立地区

(2) 対象者 読書(天白・上の原・神戸)地区住民、田立地区住民

(3) 実施方法 ○読書(天白・上の原)地区

被害木を伐採し直ちに枝払い、玉切りをして1㎡ごとに集積を行う。

集積したものに生分解性シートを被覆し薬剤を散布して14日間燻蒸。

○読書(神戸)地区、田立地区

被害木を伐採し直ちに枝払い、玉切りをして1㎡ごとに集積を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(令和2~6年度)

110㎡

②令和2年度実績

森林病虫害被害木処理 22.62㎡



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

被害木が倒れる前に処理する事ができるため、人的被害防止につながる。また、北部地域への被害拡大防止に繋がる。

(2) 継続性

被害木を伐採するため、事業効果は見込まれる。

(3) 普及性

読書(天白・上の原・神戸)地区住民、田立地区住民をはじめ観光客に対して被害対策の必要性を周知できると考えられる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

住宅や道路付近、高校通学路にある森林病害虫被害木を処理する事により、倒木による被害を事前に防ぐことができた。

(2) 課題

処理を実施しても被害木がある為、継続して被害木処理を実施していく必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

被害木が倒れる前に処理する事ができるため、人的被害防止につながる。
また、北部地域への被害拡大防止につながる。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

南木曾町

No.	事業項目	事業名
2	みんなの暮らしを守る 森林づくりに関する事業	森林病虫害対策事業に対する付帯事業
事業費 193,315 円 (うち支援金: 145,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当初は、田立地区にてマツノザイセンチュウによる森林病虫害被害が発生し年々被害が拡大しており、吾妻広瀬地区を除く町内全域に被害が拡大しており、町内の被害拡大を抑制する事が困難となってきた。

これ以上北上させない為にも国の補助事業駆除地域を大桑村との町村境付近の被害木のみとしていることから、その他の地域で発生した被害木処理を町単にて実施しているが、財政負担は増える一方で予算関係もあり処理できず、枯損木となり道、住宅等へ倒木する危険性がある。

(2) 本事業の目的

森林病虫害被害で倒木の恐れがある危険木伐採作業の付帯工（支障木処理、クレーン車等）嵩上げにより効率的な作業をすることで病虫害被害の拡大防止を図る。

事業内容

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 南木曾町読書(天白・神戸)地区

(2) 対象者 読書(天白・神戸)地区住民

(3) 実施方法 急傾斜地における被害木処理について、被害木を吊って伐採して処理を行う。
また、構造物近くにある被害木について、被害木を倒す方向に支障木があるため、支障木の伐採を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(令和2~6年度) 110 m³(年約22 m³)

②令和2年度実績

森林病虫害被害木処理 2.91 m³



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

被害木が倒れる前に処理できるため、人的被害防止につながる。また、北部地域への被害拡大防止に繋がる。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

被害木を伐採するため、事業効果は見込まれる。

(3) 普及性

読書(天白・神戸)地区住民をはじめ観光客に対して被害対策の必要性を周知できると考えられる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

伐倒・集積が困難な場所での作業時に安全に作業することができ、付近住民への影響も最小限とすることができた。

作業時に弱っている被害木からの転落を事前に防ぐことができた。

(2) 課題

町内において処理時にクレーン車を用いなければ処理できない箇所や支障木処理が必要な箇所がまだある為、継続して処置を実施していきたい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

木曾町

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくりに関する事業	緩衝帯整備事業
事業費 2,288,000 円		(うち支援金: 2,075,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当町は総面積の 90%以上を森林 (43,011ha) が占める森林町であり、遊休地の林地化が進み町内各地でニホンザルやイノシシ等による田畑や住居周辺での被害や目撃が増加し、住民生活に影響が出ている。また、森林所有者の高齢化が進んでおり、自ら森林を効率的かつ適正に管理することが困難になっている。

(2) 本事業の目的

(1) の課題への対応方向について記載)

加害獣が出没しにくい環境をつくることで農林業被害の軽減を図り、緩衝帯整備 5 ヶ年計画に基づき、今年度は日義、開田高原、三岳地区において 3.26ha を整備する。

事業内容

(1) 実施場所

木曾町日義中川地区

木曾町開田高原末川小野原地区

木曾町三岳日向地区

(2) 対象者

日義中川地区住民、開田高原末川小野原地区住民、
三岳日向地区住民

(3) 実施方法

刈り払い機等を用いて人力により藪払い等を行う

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和 2 年度～令和 6 年度)

緩衝帯整備 11.0ha

②令和 2 年度実績

緩衝帯整備 3.26ha

木曾町日義中川地区

着工前



竣工



木曾町開田高原小野原地区

着工前



竣工



木曾町三岳日向地区

着工前



竣工



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

加害獣が出没しにくい環境をつくることで被害の軽減と森林整備に対する森林所有者の意識向上に繋がる。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

継続的に緩衝帯整備を実施することで、農林作物への被害減少効果は見込まれる。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

事業対象地区住民をはじめ、観光客に対し被害対策となる緩衝帯整備の必要性を周知できると考えられる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

見通しがよくなり、鳥獣発生及び農作物被害の減少が期待される。また、地域住民の追い払い活動にも効果的だと思われる。

(2) 課題

地域住民による整備後の維持管理を定期的にも実施してもらいたいが、いずれも高齢化地域のため困難と思われる。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

毎年、緩衝帯整備の地区要望があるため、定期的に事業を実施したい。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	木祖村
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくりに関する事案	野生鳥獣対策緩衝帯整備事業
事業費 1,793,000 円 (うち支援金: 692,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当該地域は山林と農地に挟まれた村道奥木曾 1 号線沿いであり広域的な森林施業は困難であり小規模ではあるが景観整備や有害獣の対策が必要な地域である。また、諸木原地区では、有害獣による畑への被害や住居周辺でのイノシシ等による掘り起こし被害が起きている。

(2) 本事業の目的

加害獣が出没しにくい環境をつくることで農林業被害軽減を図り、村内緩衝帯整備 5 カ年計画に基づき、今年度は諸木原地区において 3.885ha を整備する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 木祖村大字小木曾 諸木原地区

(2) 対象者 諸木原地区の住民及び耕作者

(3) 実施方法 刈払機を用いた低木の除去を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30 年度～令和 4 年度)

緩衝帯整備 35ha

②令和 2 年度実績

緩衝帯整備 3.885ha



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

加害獣が出没しにくい環境をつくることで被害の軽減と森林整備に対する森林所有者の意識向上に繋がる。

(2) 継続性

平成24年度から緩衝帯整備に着手し、効果検証を継続しながら対策を進めており、継続性は見込まれる。

(3) 普及性

地域住民に対して被害対策となる緩衝帯整備の必要性を周知できると考えられる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

この地区は山からすぐの距離に集落と農地が存在し、農業被害や鳥獣被害の多い地区であった。近隣でサル・イノシシの出没が多く、地域住民や農家が日常生活に不安のある日々を過ごしていた。今回緩衝帯整備を実施したことにより、野生鳥獣が身を隠せなくなり集落・農地周辺への出没を抑制し、人身被害や農業被害を未然に防ぎ、減らすことが期待できる。

(2) 課題

数年のうちに事業実施前の姿に戻ってしまうことが懸念されるため、地域住民による継続的な維持整備が必要となる。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

鳥獣による被害に対し防除効果が高く見込まれるため今後も事業を継続実施していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村 名	王滝村
----------	-----

No.	事業項目	事業名
	森林を支える豊かな地域づくりに関する事業	令和 2 年度 緩衝帯整備事業
事業費	1,089,000円	(うち支援金: 592,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当該地域は山林と御岳湖に挟まれた村道 1 号線沿いであり広域的な森林施業は困難であり小規模ではあるが景観整備や有害獣の対策が必要な林地である。

(2) 本事業の目的

加害鳥獣が出没しにくい環境をつくることで農林業被害の軽減を図り、村内緩衝帯整備 5 ヶ年計画に基づき今年度は田島地区において 1.43ha、小川地区において 1.29ha を整備する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所

王滝村田島地区、小川地区

(2) 対象者

田島地区、小川地区住民

(3) 実施方法

刈払機等を用いて人力により、笹や支障となる低木の除去を行う

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和 4 年度）

緩衝帯整備 20ha

②令和 2 年度実績

緩衝帯整備 2.72ha

■田島地区 < 施行前 >



< 施行前 >



< 施工後 >



< 施工後 >



■小川地区 < 施行前 >



< 施行前 >



< 施工後 >



< 施工後 >



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

- (1) 事業実施による効果
加害鳥獣が出没しにくい環境をつくることで被害の軽減と森林整備に対する森林所有者の意識向上に繋がる。
- (2) 継続性
定期的な維持管理を行う予定であり、効果の継続性は見込まれる。
- (3) 普及性
田島地区、小川地区住民をはじめ観光客に対して被害対策となる緩衝帯整備の必要性を周知できると考えられる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

- (1) 目標に対する成果の状況
里山整備を行った結果、農地周辺の有害獣出没が減少した。
隣接する村道1号線は村内外の車両も多く、見通しも良くなり環境整備の観点からも評価されているとみられる。
また、整備地付近には学校通学路もあり、その安全性も確保された。
- (2) 課題
今後さらに森林所有者の高齢化が進み手入れが行きとどかない森林が増加する傾向にあることから里山整備と合わせ面的な整備が必要となる。
- (3) 今後の取組方向
 - 事業を現行どおり継続する
(今後の事業実施見込について記載)
今後も事業を継続し森林所有者や農業経営者に里山整備と併せて広くアピールし有害獣による被害軽減や出没しにくい環境づくりを進めていきたい。
 - 事業内容を見直して継続する
(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)
 - 事業を継続しない
(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和2年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村
名

大桑村

No.	事業項目	事業名
1	「森林を支える豊かな地域づくり」に関する事業	令和2年度森林づくり推進支援金事業（森林公園遊歩道周辺林整備）
事業費		715,000円（うち支援金：660,000円）

事業目的

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

のぞきど森林公園内には遊歩道が整備されているが、遊歩道沿いの林内に未生の広葉樹が多くあり、林内が暗く見通しも悪い。獣が散策者に近づいてしまう可能性も思慮される状況。

(2) 本事業の目的

林床整理伐を実施。遊歩道から見える林内の見通しを良くし、獣が散策者に近づく可能性を減らすとともに、散策者がさわやかな気持ちで歩ける環境づくりを行う。

事業内容

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 大桑村大字長野

(2) 対象者 地権者1名
住民及び公園利用者 4,000人

(3) 実施方法

林床整理伐及び遊歩道修繕

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画

林床整理伐 1.92ha

②令和2年度実績

林床整理伐 0.40ha



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

遊歩道の周辺の見通しがよくなり、又丸太階段を設置したことで、歩きやすくなった。

(2) 継続性

未生の立木の多くがなくなったことで、今後の維持管理(笹の下刈り等)に入りやすい環境が整った。

(3) 普及性

のぞきど森林公園の来園者が気付きづらい状態になっていた遊歩道が見えるようになったことで、散策への利用者の増加が見込まれる。

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

見通しが良くなり、林内の暗さによる圧迫感が解消された。又、林内が明るいことから、獣が不用意に近づく危険性も減少すると考えられる。

(2) 課題

今後の維持をどのように実施していくのか。現状残しているツツジをどの程度整備するのが課題。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

来年度も同事業規模での林床整理伐及び遊歩道の傾斜地等の整備を行う。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

10 森林税の普及啓発、評価・検証

(1) みんなで支える森林づくり推進事業

- ・森林の役割や森林づくりの重要性等について、県民の理解を深め、多様な主体による森林づくりを促進するため広報・普及啓発活動を実施する。
- ・また、地域会議による税活用事業の評価・検証を行う。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R元年度 事業実績	補助率	事業費	
・ 広報、普及啓発 ・ 県民会議等開催	県	広報活動の実施 地域会議の開催	随時 2回	-	621

【木曽地域の実績見込み】

(単位：千円)

事業内容	事業費	備考
森林税の普及啓発	330	情報誌Kisojin掲載
県植樹祭でのPRパネルの展示	0	'新型コロナ感染関連で延期
合庁ロビー等のリーフレット、情報誌の配布	0	
第1回木曽地域会議の開催 (R1.7.24)	291	'森林景観整備場所視察
第2回木曽地域会議 (R2.3意見聴取のみ)		
計	621	

広報活動の実施状況

The image shows two pages of promotional material. The left page is a magazine spread from 'Kisojin' (vol. 26) with the theme '山で働く人たちが かわいい!' (People who work in the mountains are cute!). It features photos of forest workers and children, along with text explaining the benefits of forest tax and the importance of forests. The right page is a flyer titled '信州の森林税 活かされています! 信州の森林税!' (Shizuoka Forest Tax is being utilized! Shizuoka Forest Tax!). It features cartoon characters 'Riyan' and 'Yachan' and text about forest tax benefits and local activities.

情報誌「Kisojin」vol.26 (R3年2月末発行)



ライフライン等の危険木伐採地に「のぼり旗」の設置(木祖村)

森林税を活用した事業地にのぼりを掲示し、広く県民の皆様に見地を見ていただきます。



木曾合同庁舎 林務課 来客コーナーに森林税PRチラシ等の設置

地域会議の実施状況



会議状況



観光地等魅力向上森林景観整備地を調査

県民税活用事業の取組の評価・検証や取組情報を発信し広く地域住民に周知します。

(2) 森林の里親促進事業

- ・ 里山や山村集落へ県が仲立ちとなり企業等の社会貢献活動や福利厚生活動を誘導し、森林整備と交流を通じた地域活性化を図る。

(単位：件)

事業内容	事業主体	R2年度 事業実績	備考
・ 新規契約のための企業の仲介 ・ 契約企業のフォローアップ	県	新規契約なし	

【内訳】

区分	里子	里親企業等	里親による支援内容	備考
実施状況	王滝村	愛知製鋼（株）	・ 森林整備等の支援金20万円/年 ・ アダプトサインの設置、契約記念式典の実施、契約地の除伐、木工制作・そば打ち等体験イベントを2回を実施	

森林の里親促進事業の活動の実施状況



里親企業が地域の森林整備を実施(王滝村)